

リベラルに復活の道はない、中核派・全学連委員長が激白
(週刊ダイヤモンド編集部 2017.11.12)

斎藤郁真 (さいとう・いくま)

中核派全学連委員長。1988 年生まれ、29 歳。2007 年、法政大学法学部入学。10 年、退学処分。11 年、全日本学生自治会総連合 (中核派全学連) 委員長就任。17 年、衆院選に東京 8 区 (杉並区) から出馬し、2931 票獲得

——まずは先月の衆院選東京 8 区 (杉並区) で出馬した感想を教えてください。斎藤さんは初めての選挙だったんですよね？

はい。今の政治というものに対して、うんざりしている人がすごく多い。根本的に違う価値観を、どう皆さんの実感と結びつけて提示していくのか。まだまだ難しいなあと感じました。一方で、すごく訴えが刺さった人が結構いました。手応えを感じています。

—— 2931 票、得票率で 1.2 % (候補 6 人中最下位) についてはどう感じましたか。

7 月の都議選の時は、杉並区で北島 (邦彦、中核派関係者) さんが出ました。その時は 2400 票ぐらい。それより増えた。北島さんが基本、杉並区でずっとやっていた。今回私に替わって、知名度ゼロからやって増やしたという意味では、小さくはあれ、前進したと思っています。

——特にどの辺りの訴えが有権者に刺さった

やはり社会を動かしているのは労働者。なのに働いている場所がめちゃくちゃになっているところ、共感してくれた人が多かったのかな。だから労働者がストライキを力に変えていけるんだということまでいくと変わる。でも日本ではもうそんなにストライキを見ないです。そこまで信じられないというか、そういうハードルはやはり超えられなかったんだろうなと思います。

——労働者層が特に足を止めたと思いますか？

は、青年と、「昔ばんばんストライキやった」という層から熱狂的に支持してくれる人が現れたという感じです。

——中核派自体の話に入っていきますが、昔と比べたら減っていると思います。

最近は明白に増えています。

——どの辺りの時期を底に増えてきたのでしょうか？

構成員数は発表しないです。「公安筋では約〇〇〇〇人」という数字を聞いてうちらもびっくりしているぐらい（笑）。機関紙『前進』の購読者は増えています。ただ、それが昔のようにバリバリという感じではありません。この10年で見ると、機関紙を含めて増えてきているなどというのはあります。発行部数は非公表ですが（斎藤氏に代わって別の中核派メンバーが回答）。

——若者には中核派のどういう運動が刺さっているのでしょうか。

労働運動と言いますか、現場でちゃんと闘おうというところ。ある種まじめな人はそこを見る。力が足りていないのが現状なんですけど、「なんか巻き起こそうとしているな」というところを感じている人が増えています。

——労働者の問題を訴える政党が他にもあるわけですが、どのような違いがあるのでしょうか。

他の政党は労働運動といっても選挙のときの組織力。動員というところに主眼がいています。労働運動の現場において、「じゃあ資本と具体的に戦おう」「ストライキやっても、激突していこう」「力関係を変えよう」ということをやらない。僕らは基本的にそこが一番大事なんだと結党当初から訴えている。そこらへんですかね。

——国政を見ると左派勢力が衰えています。どういうところに原因があると思いますか。

要は現場で闘わなくなった。左派の言うような約束事が現場で貫徹されない。ですし、民進党とか民主党とかが、安倍政権に対する最大の対抗軸だと新聞を読めば言われているわけですが、民進党を支える連合を含め、何をやっているか現場の人は知っている。それを信用しようとは普通ならない。

新聞は数の論理で「こことここが対立軸」とか言っているが、誰もそこが対立軸だとは思っていない。じゃあ、誰の力で生活を良くしてもらおうかというときに、「自民党が一番安パイだよ」っていうのが一番普通の感覚ですよ。

例えば、（左派政党が企業の）偽装請負を追及する。それ自体は正義なんですけど、（企業が）「じゃあやりません」となって派遣切りが横行する。それに対して左派はどうしたか。対応できない。中途半端な正義みたいなものが、全部裏目に出る。現場での力関係を作ろうとしない、そういう政治の世界での正義と言うのはもう……ということ。

——現場での力関係とは？

例えば、大企業のコストダウンというのは、法律うんぬんの話ではない。だけど、(取引先の) 中小企業は反撃できない。結果、大企業に課税したら (取引先の) 中小にしわ寄せがいくよねという当たり前の話です。

—— 一方で左派、リベラルの立憲民主党は今回の衆院選で想定以上に躍進しました。

森友、加計学園と続いて、安倍政権でいいとは思っていない人はたくさんいます。「イッパツお灸を据えたい」層はそれなりにいた。でも実際、立憲民主党が勝ったところで、変わるとは思えません。

——なぜ変わらないのでしょうか。

民主から何から含めて変わらなかったですし、政治に関心をもって見ていた人なら、枝野 (幸男・立憲民主党代表) が原発事故の直後に「ただちに影響なし」と言った人と知っています。さらにその後撤回したわけでもありません。その人を信用しろと言われても、そんなテンションにならない。エリートの遊びですよ。どっちがましかという話。どちらにも正義はないでしょ。

——リベラル勢力の衰退が叫ばれる中で、反安倍の世論。復活には何が必要か。提言はありますか。

リベラル勢力が復活することは無理だと思います。要はリベラルとは、左派でも右派でもないということです。労組とかそういう基盤なくやるんだというのが一つの筋になっていますから。要は選挙とか、そういう場所以外においてストライキとかで強制しようという論理の筋道がない以上、彼らはじり貧になっている。復活の道はその先にはないと思います。

——そうすると今後、日本の二大政党制は成り立たないものなのでしょうか。右派とリベラルの対抗軸、自民と民主が戦ったような状況にはなり得ない？

あれは一時的にそういう状況になりましたが、じり貧になる過程の話だろう。他の国でもリベラルの衰退は起きていて、労働者の雇用とかということ掲げる自国第一主義を掲げる政党が大きな潮流を形成し始めています。構造は日本と同じ。労働組合が腐ってしまい、自分たちの支持基盤が……。LGBTとかもちろん大切だとは思いますが、自分たちと切り離された市民運動の領域、ある種エリートの領域に支持基盤を求めていく限り、具体的に生活が崩壊していくとか、そういう人たちが誰に頼って生きていくのでしょうか。そういうことを考えたら、やはり国家主義とか、そういうものが代替していく。今までの自民党は国家主義をあまり出しすぎないようにしていました。2000年の前までは。そのあたりを自民党が押していくようになってきたのがこの15年間くらいの歴史です。

——保守と革新。そもそも今の自民党は思想的には右派、保守。政策的には本来革新政党がやるべきものをして支持を集めているように思います。

まさしくその通り。日本は労働運動がめちゃくちゃ強かったという歴史が 60 年代にあるので、都市では社会党に勝てなかった。農家とか農協とか地主が自民党員だったりして。「具体的な信頼」を作っていたというのが自民党の強さだったと思います。

——土着的な部分？

そうですね。だからこそ自民党が都市から農村への再分配策とか、社会党に負けない社会保障政策とか。自民党は結構、積極的に打ち出していましたよね。

——60、70年代はそうだと思いますが、80年代は保守への回帰が起きました。その後左に戻って、小泉政権で更に新自由主義という形で保守に戻って、その後また戻ってきたという印象。自民党も揺れ動いてきた印象があります。

それは踏み込んで、雇用を破壊して、柔軟な雇用を作り出して、労働者からの搾取を強める。当然労働者からの人気は落ちるので、ある程度揺れ戻しながらバランスをとって政権を担ってきた。

——本来は揺り戻しと言うのは政権交代で起きるもの。米国は共和党と民主党の間で起きます。

立憲民主党の枝野さんなんかは「30年前だったら、自民党宏池会に自分がいるはずだ」と自分で言っています。そういう意味では、野党も自民党のような世界観で物事を打ち出して勝負している。となると政権交代をする必要がない。選挙でそれ（政権交代）が起こることはあり得ない。なぜなら選挙はテストみたいなもので、日常の力関係がそのまま表れるから。資金力がまず要因。何回選挙しようが、安倍政権がどんだけひどいことをやろうが。

——一方で小選挙区制度だと逆転が起り得るのかなと思うのですが再度政権交代はないのでしょうか？やはり民主の失敗が大きすぎたという考えですか？

そのことを左翼の方も総括していない。だから信頼されていない。そういうことがかなり大きな問題。自民党が大こけしても代わりに出てくるのが希望の党みたいな（笑）。「別に思想的には大して変わらないよね」という野党が出てくる。

内ゲバは「やるべき戦争」だった、中核派・全学連委員長が激白 (2)
(週刊ダイヤモンド編集部 2017.11.13)

——中核派に話を戻します。中核派のイメージは変わってきたと思いますか。

世代によって違うかなとは思う。80年代、90年代……。僕らが内ゲバを否定していたら違うのかもしれませんが、僕らはあれはやるべき闘いだっただというふうにも今でも思っている。そういう意味では否定はしていない。

内ゲバというのは権力が作った言葉です。それを他のすべての人が受け入れただけ。僕らはあくまで革マル派との「戦争」。当時、革マルが大衆的な運動では中核派に勝てないから「中核派は全員殺しちゃえ」となった。破防法で中核派が動きにくくなっている時期に、という論文も出したりして。職場で一人、二人の中核派のうちに襲うとか。それに対してどうするの、というときに、いったん勝負をしなければいけないという党の判断があった。

じゃあ、当時、他にどんな判断があったんですか。おとなしく殺されればよかったんですかと。外から見たあなたたちの考えはそうかもしれないが、中にいる私たちの判断はそうですよ。

——対革マル派と最近の内ゲバないですね。

あちらがやらなくなったら、こちらもやる必要はないと。革マル派の殲滅に向かって最後はいきますけど、解放社（編集部注：革マル派の拠点）に乗り込んでウオーとか、それはないですから（笑）。

内ゲバを否定はしていないが、それだけで革命が起きるとは思っていない。労働運動とか学生運動とか、現場にいる人間の主体性を引き上げていくと言いますか、爆発させていく。その中で日常が変わり、革命が起きるとというのが基本的な考え方。

今は、そっちの「基本的な路線」の方が目立つので、20代、30代はそういうイメージを持つ人が少しずつ増えていると思います。逆に40代、50代は内ゲバのイメージ。現場を見たりとか経験として知っている人がいる。そういうイメージを拭い去るとするのは実際問題厳しいのかなと思います。

——中核派だけでなく、過激派の大学拠点もどんどん失われています。学生と接点を失ったとも言える。前進チャンネル（ユーチューブの中核派PR番組）を始めた狙いは、接点がない人に接触しようということですか？

それを含めて、今までやってこなかったことをやってみようということです。

——中核派と言えば、斎藤さんが在籍した法政大学、そして京都大学。退学者を出したり、大学当局が圧力を増しているように見受けられます。

何かを起点に圧力を強めていると言うよりは、大学の側にまず、大学改革というのがある、産業の競争力のために、大学、産業が連携しないといけないという方向に向かっていきます。30年スパンで改革をやるんだということをずっとやられている。その流れで踏み込んできて、ぶつかっているというのが基本的な形。

京大の場合は反戦バリスト（編集部注：15年に中核派の学生がキャンパス内でバリケードストライキをした）から激しくなっているように思われていますが、その前の段階から、既存の、僕らと関係ない自治寮とかに関しても「団体交渉をしない」とか始まっていた。その流れであんな形に。

——過激派の活動の拠点になっているのが経営上ふさわしくないと大学は考えていると？

完全にそういう認識だと思いますね。

——受験する高校生が減るから？

それだけではないと思います。私立大学レベルでは「イメージ良くないよね」と言われているのかもしれませんが。国立大学レベルでは「国家のために産業と連携していけ」という話はすなわち、防衛省の軍事研究。大学にいま呼びかけているわけですが、それに対して反対の声というのが大学の中から起こるといのは本当に簡単ではない。日本の支配層は60年代、70年代に「ベトナム戦争反対」とか嫌というほど味わっていますから。大学の中で反対されて、それどころではないという状況になった。なので、それ（産学連携）を貫徹するためにはあらゆる反対勢力を排除しよう。僕らに限らず不穏分子といいますか、自治会とか教授会とか。そのなかで乾坤一擲、大々的に反撃しよう、勝負掛けよう。僕らが動き、中核派だけが目立っている。

——産学連携とは軍事研究？ どの大学でもやっているのでしょうか？

というよりも、大学を一つのGDP上昇の協力機関に変えようという流れの中で、直接軍事研究と関係なくても、「自分の市場価値を上げろ」という教育を文系理系問わずやる。グローバル人材を育てようとか。金融企業と結び付くとか。

それに対して組織的な反対運動をするのが中核派。他の政党、人たちはあきらめて反対もしないので、活動がすたれ、人もいなくなり、さらにすたれていっている。ピラミッドと小さい形であっても、大学に目をつけられるのを覚悟でやろうということですから。他の人たちにはできないので、中核派だけ生き残った。力はまだまだ弱いですけど。

——大学の圧力は具体的にどんな形で感じていますか。

大学のルールを変えて集会を禁止にしちゃうとか、ビラまきを大学の許可制にしたり。または退学処分。

—— 15年に中核派の学生らが京大キャンパス内で行ったバリケードストライキ（バリスト）。ユーチューブで見ましたが、一般学生がバリケードを内側から破壊したんですよね？

最後の対応をミスった。12時でバリストは終わりにしますと言っていて、その後バリケードの防衛を解いていた。後で撤去する予定だったが、秩序を大事にしたい人はいますし、まじめに授業受けたい人も少数います。そういう人たちがあいつた行動に出ること自体は……。むしろバリケードを守っている最中にそういう激突にならなかったことで、「まだ（中核派の言い分を）聞いてくれているな」という風に思っていますけどね。

——ノンポリ、反学生運動層は認めざるを得ない一定層いると？

もちろん。

——ユーチューブだけを見ると、スト中に壊されたのかなと思ってしまいました。

そういう風に言いたい人たちはいます。産経新聞なんかそうですし。バリケードを破壊した人たちもそういう風に思っているんだろうなあと思います。「主体性を発揮して壊した」んだと。

僕らは無風な状態で軍事研究だったり、学生を商品にするような教育だったりをしていることに反対ですよと。そういうことを思ってバリストをやった以上、軋轢を生むだろうなど覚悟してやっている。教員とか当局よりも、学生の方が数多いですし、具体的な行動をしていくことはあるだろうなと思っていました。

——ユーチューブに半永久的に「中核派を一般学生が打破した」と思われてしまう画像が残ります。悔しいですか？

うーん、悔しくはありますが、そういうコンテンツがある以上仕方ありません。1年でも2年でもかけてあのバリストが、なんのためにやっていたのか、正しかったのかどうか。これから評価が決まっていく。それは僕らの活動に問われていると思います。

—— 一般学生が破壊活動をするのは長い学生運動の歴史の中で珍しいのかなと思う。ある意味中核派を恐れないと言いますか。

うーん、私が大学に入った時には、当然そういう学生はいました。昔もいたと思う。でも昔は力関係がもっと（運動側が強かった）。労働者もばんばんストライキしていた。ストライキが世の中にあり得るんだという前提があったから、「（ストライキにぶち当たっても）今日は仕方ない」となったかもしれない。でも僕らの世代はストライキなんて見たことがない。「ただの占拠行為だろう」という見方をする人がそれなりに出てくるのは当然かなと思います。

でも本当はカリキュラムが決まっているから、「こう動かないといけない」というようなんじゃないくて、自分たちが決断すれば「止められる」「変えられる」のです。ストライキという行為がこの社会にあることをよみがえらせた。

——大学キャンパスでのバリストは何年振りだったのか分かりますか？

京大では約 30 年ぶり。全国でも東北大で 2000 年に国立大学法人化反対のバリストをやって以来です。

（以下中核派メンバーの回答）

東北大以降、物理的な大学内ストライキには刑事罰を適用すると大学が言った。こっちとしても「うっ」となる。で、しばらくやっていなかったが、一昨年は安保法案が通ったので、「ここはちょっと腹固めてやろう」となった。実際正門前まで警察が来てましたので、突入されても仕方なかった状況でした。

——ついでに伺います。京大では 14 年、キャンパス内に無断で入っていた私服警官（公安）を中核派学生らを取り押さえる事案がありましたよね。大学の自治が焦点となった、あの有名な東大ポロ事件になぞらえて、「京大ポロ事件」と呼ばれているそうで。概要を教えてください。

労働者の大きな集会をやり、そこに参加した京大生が 2 人逮捕されました。その仲間を取り戻そうと、京大内で呼び掛けていたところ、「変な人がいるぞ」となった。声を掛けたら逃げ出した。つかまえたら公安だったという流れです。

——公安の身柄を大学敷地内で学生側が確保する行為自体、珍しいですよね？

普通そんなことやったらこっちが逮捕されますから（笑）。血気盛んな人が取り押さえた。最終的には大学当局に突き出しました。

（以下中核派メンバー）

恒常的に大学空間に入って面割りするやつがあまりにも露骨にやっていたという話。ど

この大学にもいるんでしょうけどあんまり普通分らない。

左翼は 89 年「総評」崩壊で心が折れた、中核派・全学連委員長が激白 (3)
(週刊ダイヤモンド編集部 2017.11.14)

—— 60 年代、70 年代は大学紛争全盛期。最近はほとんど聞かない。なぜ衰退したのでしょうか？

一番大きいのは国鉄分割民営化で、労働組合が基本的に崩壊しました。

当時の学生の未熟さ故ではあると思うんですが、運動に参加した人たちが普通に就職した。なんというのかな、戦って社会を変えるというのはあんまり意味がないんだと、当時運動をやっていた人たちすらそう言っちゃうぐらいまで、運動する側が闘えなくなってしまった。

それが次の世代にも影響。負のスパイラルが続いた結果、「政治とは選挙なんだ。選挙のとき以外は、政治のことなんて考えなくていいんだ」となってしまった。そうじゃないとむしろマナー違反みたいな雰囲気がある。運動して「なんかやる」という感覚自体がなくなった。

政府の側が運動をつぶすためにキャンパスを移しちゃうとかいろいろありました。例えば、筑波大学、広島大学。法政大学も経済とか社会学部が一番学生運動強かったんですが、二つの学部を多摩の山奥に移した。大学側は移転理由を公然とは言わないが、理由はそうに違いありません。

——早稲田は 1997 年～2001 年、学園祭がありませんでした。革マル派の資金源を断つためと言われてます。そういった動きは他の大学でもあったのでしょうか？

ありますよ。4 年かけると学生はだいたい入れ替わりますから。記憶がなくなったところで改革というのは大学側の常とう手段。法政も学費を上げる過程で、ボワソナード・タワーを建てるために暫定的に上げるという話をして、4 年後に今度は建てるのにお金がかかったので更に学費を上げます、と。学生の側が自分たちの闘いの歴史を継承する組織がないと「やりたい放題」。大学の常識を変えていくスピードは社会よりも早いです。

——労組の崩壊。国鉄の民営化は学生運動にとっても大きな転機だったのでしょうか。

はい。

——国鉄だけの話ではなくて波及していったと？

そうです。運動は人間がやっていますから。当時最強だったのは国鉄。そこが解体されたら「もう戦えないよね」と。一気に連合の結成に向かって物事が進んでいく。

(以下中核派メンバー)

89年の総評（日本労働組合総評議会）崩壊。91年のソ連崩壊。それが与えた影響がとてつもなく大きい。基本的に日本の左翼と呼ばれる人たちは、それで心が折れた。あきらめた。雪崩を打ったというのは事実であります。

——ソ連崩壊というのはイメージが湧きますが、同じぐらい総評崩壊も大きいと？

(以下中核派メンバー)

ですね。でかい。まがりなりにも社会党があつて、絶対反対で戦って、ストライキやって。春になると春闘デモ。それが一夜で、自民党となれ合うような連合に代わった。連合の方が総評より規模は大きいけど、総評は力が強い。要するに戦闘力がある。要求が通らなければストライキをやる。僕ら総評を支持はしないし、社会党は嫌いですけど（笑）。

総評というところに体现されていた日本の労働者の力と言うのは、やはりでかい。90年前後までストライキというものがありましたからね。

——個別に強い労組は今でもありますよね。

はい。でも社会全体を止める力と言うのは……。その時代は総評の反対を押し切ってやれないから、正月とかに総評の会長と首相が話すとかイベントがあつた。もう一人の首相、権力として労働組合があつた。「賃金上げろ」とかは当時、総評の下で整然とメーデー、春闘、全体で団結して賃上げ闘争。いまは個別の労組。分断がものすごくある。

(以下中核派メンバー)

「むかし陸軍、いま総評」という言葉があつたじゃないですか、80年代。いい意味で言われていたわけではないが、それぐらい力があつた。

——総評崩壊、ソ連崩壊のほかに、左翼勢力の衰退の端緒になったイベントとして、他に何かありますか？

基本的にはそこで力関係がだいたい決まっちゃいました。10年間くらい押しつ押しされつ。そして郵政民営化があつて、民主党政権のときに国鉄民営分割化の解雇闘争が正式

に終わるとというのが最後大きいと思う。国労とか、今まで左翼と呼ばれた勢力が「もう戦わない」と物事を決めていっちゃった。

(以下中核派メンバー)

90年代は混濁していた。あえて言うなら93～95年は、左が押していた。自民党政権崩壊、従軍慰安婦問題、河野談話、村山談話……。世の中よくなるんじゃないかという流れがあった。明白に96年以降はカウンター。つくる会教科書、歴史修正、不景気で労働者の賃金下がって行って……。とどめは小泉登場。そして民主党政権下で国鉄闘争が終わる。

——97年以降の金融危機で景気が悪くなる中で、というのも大きかったと思いますが？

それに乗じて、「会社の経営が悪いから仕方がない」と。そうすると労働者側が闘争できない。組合員を守るために、非組合員を非正規雇用に落とすとか、大手の労組では「原発現場は非組合員を送る」とか、平気でやっていた。それで「組合を信用しろ」とか「左翼を信じて」とか（はおかしい）。ある種、新聞に意見すら出てこない人、サイレントマジョリティはものすごく圧力を食らった。この20年間ぐらい左翼が注目してこなかった領域なのかな。

——昔のような強い左派ではなく、穏健なリベラルの人たちの受け皿はどこになっていくのでしょうか。

そういう人たちはすごく減っていて、その人たちが立憲民主党を支えている。とうの昔に絶滅していくという状況に基本的にはなっています。

(以下中核派メンバー)

単純に歴史が重なるわけではないが、資本主義の危機が進めば、社会の崩壊が進めば進むほど、二極分解化が進む。ナチスとドイツ共産党の戦いのように。自民党で今までやってきた連中がどんどん淘汰されて、安倍みたいな極右がのしちやって。中間部分がどんどんなくなっていった。社会が右と左に分かれていくのは避けられないと思う。ちゃんと働いて食えて年金もらえてという社会なら、そんなにみんな（右へ左へと）走らないと思うんです。

「革命」は現代でも起こせる、中核派・全学連委員長が激白（4）
(週刊ダイヤモンド編集部 2017.11.15)

——「全学連」（全日本学生自治会総連合）は中核派系以外にも、共産党系や革マル派系など5つぐらいありますよね？ それぞれが名乗っているのでしょうか？

（以下中核派メンバーが回答）

共産党、中核派、革マル派、そして解放派に二つ。実際に実態をもって学生運動をしているのは前3者。でも共産党もシールズ（SEALDs：自由と民主主義のための学生緊急行動）が出てきて以降、全学連とは名乗らなくなりました。

——シールズについてはどう評価しますか。

今の時代の左派の典型。「この状況がおかしい」「なんとかしたい」と思っているけれども、「自分たちの現場から物事をひっくり返そう」という考えはない。みんな忙しいし、それどころではない。学生も就活で忙しい。だから「できることをできるだけやろう」。

それだけを見るとある種、正しいことではあるんですけど。「政治パート」「日常パート」を分けている。

若いというだけで、内容に新しいことは一切ない。それでは頭打ちになるよね。学生運動を昔やっていたような人が、またやっているということで希望を持って見つめていることはあるにせよ、若者を動かすものにはなり得ない。

——ところで革命は今現在もできると思っていますか。

はい。むしろ今こそ革命だ。

——本来的な意味での革命ですか

はい。

——具体的なスケジュール感を教えてください。

うーん、一つカギになると思うのはゼネラルストライキ。職場全部止めて、自主管理闘争に入って、生産（工場）全部を掌握する。資産家側から見たら没収ですから、そりゃ最後はバトルになりますよね。そして、最後は権力の掌握に向かって進む。

——どうやって掌握しますか。

官公庁とか全部占拠して、軍隊の大多数を獲得して。将校クラスは獲得できないと思うので、それらと最後は内戦ですよ。

——暴力革命を否定しないと。

はい、そうです。

——今の日本人には抵抗が大きいと思いますが、理解してもらえますか。

そうですね。政治の世界を国会だけだと考えていたら永遠に理解できないと思いますけど。職場での具体的な闘いになってくると、資本の側も、法律とか関係なく横暴なことをやってくる。その対決の中で、「力関係で物事を解決していこう」という視点を初めて獲得できる。

(以下中核派に今年入ったばかりの国立大学生)

歴史を振り返れば、暴力革命は当たり前なんじゃないかと思う。フランス革命、ロシア革命……。

——暴力革命のための準備もしているのですか？

現状してないですよ。武器の製造とかですよ？ ロシア革命のときなんか明白ですけど、軍隊で前線に行く人の 99% は労働者の家族。で、指揮官なんかは最初から最前線に行かないことを前提に軍隊に入っている。コネだったり、勉強して入ったり、というのがほとんど。

最前線に行く人たちを獲得したら、相手側の暴力は事実上ほぼない。あとはただの占拠。本当の意味での暴力革命を成功するための暴力はそこにある。鉄パイプで暴力革命を起こせるわけじゃないじゃないですか(笑)。その程度の暴力は、一人二人を従わせるための暴力であって、強制力になり得ないですから。暴力革命というときの「暴力」はもっと大きな話。概念的には「それって暴力に入っていないよ」という程度の話。

——警察庁発表では 2016 年で中核派は約 4700 人。多すぎるように思うんですが。

ノーコメントですかね(笑) 僕らが本気で動員かけたらそれぐらいの人数だという判断なのかなと。

(以下中核派メンバー)

でもそういうものと思ってもらえればいいんじゃないですかね。例えば 11 月最初の日曜日に毎年中核派最大イベントの労働者集会をやる。そのときに毎年 5000 人ぐらい来る。警察はそれを参考にしているのかな。もちろん、その中には中核派じゃない人もいる。

——革マル派は 2015 年で約 5500 人。微増傾向にあると聞いています。なぜなのでしょう
か。

今の社会がおかしいと思っている人は結構いますし、共鳴する人がいます。革マルが具
体的運動をやって、体力勝負とか、覚悟してでも戦おうとかを「しない」ので、そういう
意味では、ある程度薄い血でもとどまるというか。

立花隆さんの著書でもあるように、階級闘争が激しくないときは革マルが増えて、激しい
時期は中核が増える。いまは労働現場で戦おうという主張が現実味を帯びて受け入れられ
ない。「できないよ」「無理だよ」と思う人が現状たくさんいる。

——ネット右翼については何かご意見ありますか？

ある調査で 30 代、40 代が中心とありました。要はどんどん非正規労働が増えていって、
「社会がおかしい」と感じるんだけど、自分たちは正社員で、なんとか自分の生活を守り
たいという思いから、そういう精神性が生まれているのかな。

一方で、彼らの世代は内ゲバが激しい時代でもありましたから、左翼に良いイメージが
ない。結果そういうもの（ネット右翼）が生まれる。そういう分析がありますが、正しい
んじゃないかなと思います。労働問題にはものすごく関心あるけど、LGBT とかには関心
ないトランプ支持層と精神的には似ているんでしょうね。

——ネット右翼に対して極左としてカウンターはしないのですか？

具体的に中核派の集會に攻撃を掛けてきたら反撃しますけど（笑）、こちらからわざわざ
あちらのデモに行って逮捕されるのは嫌です（笑）。僕らはカウンターはあんまりしま
せん。自分たちの行動をします。

恋愛 OK、活動家の集団生活とは？中核派・全学連委員長が激白（5）
（週刊ダイヤモンド編集部 2017.11.16）

——斎藤さんと中核派の出会いについて教えて下さい。

僕は 2007 年に法政大学に入学しました。大学はその前年に学内の立て看板やビラまき
を許可制、事前検閲制にしていました。それに（中核派の）全学連は従わず、学生 29 人
が一斉に逮捕されました。火炎瓶を投げ始めたら議論の余地はありますが、大学でそれ
はおかしいんじゃないかと。大学は理性的に判断して、大学生の判断に委ねればいいと思

いました。そういう感じでやっていたら、「お前も中核派だろう」と、大学当局にマークされました。

高校までは陸上部。大学に入ったら政治について真面目に考えようとは思っていませんでした。最初は中核派を監視する職員とかと話をするようになって、「おかしいんじゃないですか」と。そのあたりから中核派と一緒に大学の状況をひっくり返そうと、左に向かって急旋回していきました（笑）。

——逆に言うと高校までは右でも左でもなかったと？

もともと政治には興味があって、15、16歳ぐらいに、「新しい歴史教科書をつくる会」の歴史教科書を読みました。「おもしろいなあ」と。新右翼的な考えを持っていた時期がありました。

（以下中核派に今年入ったばかりの国立大学生）

自治会活動をいろいろやっていましたが、大学当局がどんどん言論規制をしてくる。ビラまきはやめろとか、立て看板を立てられないようにするとか。そういうことをやってくるので、闘っていました。でもなかなか運動が広まらないし、自分一人でやっても、どうしようもない。そういうときに中核派はまじめにちゃんと闘っている（と気付いた）。

アライバイ工場的な運動ではなくて、SEALDs（シールズ）とかじゃなくて、ちゃんと現場で、キャンパスで戦っている。そういう組織に魅力を感じました。距離を置いて、ときおりネットで機関紙「前進」とか読んでたら、ユーチューブ（前進チャンネル）始めたり、ビラもちゃんとしたものができてきたりしたので、頑張っているんだなあ、と。だったら一緒に活動しようと最近入りました。

——シールズでは物足りないと？

（以下中核派の国立大学生）

あれは意味あるのでしょうか？ 国会前で車を止めることはできたけど、もっと力を持たないと法案阻止なんてできない。だったら現場でストライキとかする必要があるんじゃないかと。あと、シールズって大学の言論規制については一言もいわない。足元で声を上げないと不誠実だろうと。正義の筋が通らない。

——今取材に来ている中核派の拠点、前進社について教えて下さい。

（以下中核派メンバー）

5階建ての新館と4階建ての本館に分かれています。先ほど見て頂いた学生ルームは新館。新館は建て増し。ざっと約100人が生活、あるいは家から通っている。年代としては20～80代。出版作業の手伝いの人もいる。こちらに移ったのは94年。それまでの前進社は池袋にありました。

——中核派の資金源はどうなっていますか？

(以下中核派メンバー)

(1) 党費 (2) 機関紙、書籍 (3) キャンパ。党費は秘密です。働いている人、そうでない人で額が違います。年代でも違います。

——斎藤さんたちは、ここに住んでいるのですか？

(以下中核派の国立大学生)

私は住んでいません。前進社に来ることもめったにありません。

(以下斎藤さん)

住んでいます。

——ここに住んで不便な点はないのですか。

僕は中高が寮だったんですけど、実は集団生活はそんなに好きではありません(笑)。前進社は居住空間である前に活動の場ですから気を抜けない感がある。でも前進社はそういう場なんで、自分の中で折り合いを付ける。最近は慣れました。

(以下中核派メンバー)

集団生活が好きな人はここが好きですね。何の不満もありません。お風呂は24時間入れるし、広いし。食堂もあるし、自炊もできるし。実家と前進社なら実家となるが、不便なひとり暮らしと前進社でどっちかというところ絶対には前進社ですね。

——食堂についてはどうですか。

あの値段でよく作れるなあ、ちゃんとしたものができるなあとは思いますがね。朝250円、昼350円、夜400円。1日合計1000円。(編集部注：取材に訪れた日の昼食は「チャーハン、生野菜、スープ」)

——家賃はあるのですか？

(以下中核派メンバー)

定住者は光熱水道費が一定の額かかる。それはまあ安いですけどね。学生ルームの人たちでいうと、アルバイトしている人もいます。斎藤くんなんかはアルバイトするより「ちゃんと活動してよ」となるからしていません。

——アルバイトをしてない人は組織からお金を得ているのですか？

(以下中核派メンバー)

額は違いますが、専従的に活動している人については、専従費といいますか活動費があります。

——いくら？

(以下中核派メンバー)

取材で必ず聞かれるんですけど、結構極秘な (笑)。

——カラオケとか行くんですか？

こういう活動してますから、飲み会はありますよ。選挙後の打ち上げで、カラオケで朝の 6 時半までいたりとか (笑)。僕は歌が下手なんでカラオケの空気を楽しむだけなんですけど。今風の歌も歌う人もいるし、アニソン歌う人もいるし。

——恋愛はOKなんですか。

OKです。

(以下中核派メンバー)

自由と言うか、何の制限もないです。

——男女一緒に住んでいるんですか。

はい。もちろん部屋は分かれています。でも恋愛はしにくい空間ですよ (笑)。

——幹部だとここに住まないといけないというわけではない？

(以下中核派メンバー)

労働運動の幹部だと、ここに住むわけにはいかないから自宅に住みます。

——身の安全からここに住むという発想はないのですか？

(以下中核派メンバー)

昔は大変だったみたいですよ。個人で出歩いたらいけないとか。前進社から出る時は幌トラックに乗って出ていかないといけないとか。90年代以降はそんなことはないです。